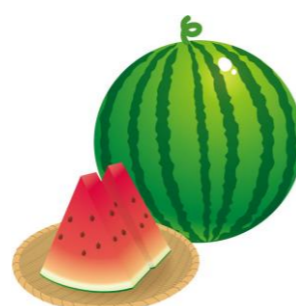


Information

グループホーム入居者を募集中！

8月1日現在、ハーモニーやまなみでは下記のホームにお部屋の空きがあります。グループホームの入居希望の方は、ご連絡をお待ちしています。随時、お部屋の見学もお受けしています。

- ・ハーモニーやまなみ2号 共同生活タイプ 1部屋 男性
- ・ハーモニーやまなみ3号 共同生活タイプ 1部屋 女性
- ・ハーモニーやまなみ5号 共同生活タイプ 1部屋 男性
- ・ハーモニーやまなみ6号 アパートタイプ 1部屋 男性 or 女性



新年度(令和3年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行

特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 繁男

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2(みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」
多機能型事業所(生活訓練・就労移行支援・就労定着支援)「ワークハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2021.8

No.217

麦のゆめ、榛東村とコラボ！しんとうちゃんパンを発売！

この夏、しんとうふるさと公園にあるパン屋さん「麦のゆめ」に新商品が出来ました。その名も「お腹も満足しんとうちゃん」です。「しんとうちゃん」は、榛東村のゆるキャラです。様々なイベントにも登場し、榛東村の子供達にも人気です。

販売は、土曜日だけの販売です。是非、お子様連れで公園に遊びに来た際にはお買い求めください。

また、販売を記念してお店で配布しているチラシを次回のご来店の際にご持参頂き、「お腹も満足しんとうちゃん」をお買い上げ頂いた方には、もれなく冷凍ゼリーをプレゼントしています。

この夏の一押し商品です。焼き上がりの数の限りがありますので、お早目のご来店、ご購入をお勧めします。

麦のゆめでは夏季限定のパンをはじめ、オリジナリティにあふれたパンを取り揃え、皆様のご来店をお待ちしています。



ハーモニーやまなみ(2号・3号・5号)、手作りの夕食提供を再開

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、グループホーム「ハーモニーやまなみ」の支援も影響を受けました。特に食事支援については、各ホームのダイニングキッチンで食事を取っていましたが、密を避けるため、食事は各個室に自分で運んで食べるようになりました。また、世話人さんが手作りしていた夕食は、「キッチンハウスみやま」から夕食用のお弁当を取るようになりました。

新型コロナウイルス感染症によって定着してきた新たな生活様式は、今後も新たな感染症対策として社会のスタンダードになります。これまで入居者が集い夕食をする姿はグループホームの良いところではありましたが、「ハーモニーやまなみ」では、新型コロナウイルス感染症が収束した後も新しい食事支援として個室での食事を継続します。

ただ、手作りの夕食提供については、8月より共同生活タイプの2号、3号、5号にて再開することになりました。今回、夕食提供の再開にあたり食事の内容の見直しを図るため、2社の食材宅配事業者さんよりサンプルを取り寄せ、世話人さん達で試食会を開催し、量や質、価格等を比較検討しました。

また、アパートタイプの1号、6号については、8月より入居者の方に各部屋のキッチンを使って、自立に向けて自炊にチャレンジをして頂くことになりました。



ワークハウスムヤマの就労定着支援が本格スタート！

6月より高崎市金古町にある「ワークハウスムヤマ」では、障がい者の方の一般企業の就労定着を支援する「就労定着支援」が本格的にスタートし、5名の方について企業訪問等を行っています。また、7月には新たに「ワークハウスムヤマ」の就労移行支援を通じて、一般企業に就職をした利用者もいます。「ワークハウスムヤマ」が、就労移行支援を始めて8月に丸2年を迎えますが、これまで播いた就労支援の種が2年を経て、着実に花を開き実を結び始めました。

障がい者の就職については、ご本人様と企業様との双方に悩みや不安があります！

【ご本人様】

- ・自分の障がいや特性について相談できる人や悩みのお話できる人が職場にいない。
- ・病気や障がいの特性について、職場でもっと理解や配慮をして欲しい。
- ・疲れやすかったり、調子の波があるので働き方について相談したい。
- ・仕事に慣れてきたので、もう少し働く時間や仕事の量を増やしたいのだけど・・・。
- ・仕事の内容や働き方を変えるときには、誰かに間に入って調整をして欲しい。

【企業様】

- ・障がい者雇用を試みたけど、実際のところ障がい者のことがよくわからない。
- ・コミュニケーションを取りたいけど、どんな風に声をかけたらよいかわからない。
- ・長く働いてもらうためには、どんな配慮をしたらよいかわからない。
- ・もっと障がい者の方の人を理解し、障がい者雇用をしたい。

就労定着支援はご本人様と企業様をつなぐ架け橋です！

「就労定着支援」には、就労定着支援員と呼ばれる職員が、ご本人様と企業様の双方の悩みや不安なことを聞き、その間に入って様々な調整を行います。

【相談】

就業に関してご本人様が困っていることなどの相談を受けます。



【訪問】

就業先の企業様を訪問し、ご本人様に関して配慮して欲しいことなどをご相談します。



【調整】

ご本人様、企業様の不安や悩みについて、就労定着支援員が間に入って調整することで職場への定着化を応援します。



就労のお悩みは私達が解決します



ワークハウススタッフ

「自己実現」と「自己表現」の広場

山脈には、ピア活動を通して「自己実現」や「自己表現」を追求するメンバーさんがいます。今回、ご紹介する耕造さん（ペンネーム）と淡路さんもそんなメンバーさんです。ふたりとも、山脈のピア活動グループ「ホープ・オブ・ハート」の中心的なメンバーさんです。

耕造さんは、執筆を中心に日頃より活動しています。作品がだいぶ溜まってきていたので、何か発表の機会が欲しかったのです。そこで今回は数ある作品の中からひとつ掲載させて頂きました。

淡路さんは、これまでも様々な場所でご自身のリカバリーストーリーの発表をしたり、病院交流会で患者さんの退院促進に関わるなど群馬県におけるピア活動の先駆者として活躍しています。今回は、淡路さんの障がい者の社会的役割と存在意義に関する考えを掲載させて頂きました。

文学は人の言葉

文学は「人の言葉」である。或いは「言葉の人」である。言葉に人が関わることで力がみなぎり、また、責任も取っているのである。

「耕造」というただの単語がある。そこに「です」という言葉をつけてみると「耕造です」と言える。動きが生まれ、パワーを感じなんとなく情景までも目に浮かぶでしょう。これが文学なのである。文字は生きています。

文学そのものに答えはない。文学は空とも言えるし、無限とも言える。文学に関わっている人がそこから答えを己の中に発見するのである。「ワタシはこう思う」と。文学はその人にふさわしい感じ方、考え方をその人に与える。

作家は紙に人の言葉を書く。そうすると紙が文学になる。人を登場人物として紙に描けば特に生きたストーリーとなる。

読者は文学を生きる。

耕造

障がい者の社会的役割と存在意義

障がい者は、明らかにマイノリティー（少数派）の象徴である。だが、そんなハンデを抱えてはいても、必要な支援さえ受けられれば何らかのことはできる。

また、人は誰もマイノリティー（少数派）の部分を持つている。だから、障がい者が頑張っているところを見せれば、誰もが自分も頑張れると感じる。

ただし、障がい者には何か依存的なイメージがある。しかし、それを契約関係に置き換えれば、充分、自立可能だと理解される。

その為には、障がい者の社会的・経済的な地位向上が必要である。

そこさえ何とか出来れば、障がい者は人に勇気や希望を与えることのできる存在になれる。

それこそが障がい者の社会的役割であり、存在意義である。

淡路哲央